共同運営部門：糖尿病センター

―関係部署―

役　　職	スタッフ名
センター長 兼糖尿病・内分泌代謝内科部長 兼ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長	樫根　晋
糖尿病・内分泌代謝内科医長	大槻　朋子
糖尿病・内分泌代謝内科医長	倉敷　有紀子
糖尿病・内分泌代謝内科医長	伊藤　博崇
糖尿病・内分泌代謝内科副医長	高山　瞳
糖尿病・内分泌代謝内科医員	酒井　保奈

―概要―

糖尿病治療の目標は血糖値を良好にコントロールすることにより、合併症の発症、増悪を予防し、健康な人と変わらない寿命を確保することである。そのためには、長期間、患者の生活全般にわたって介入することが必要になる。糖尿病センターでは患者の長期にわたる療養をサポートするため、外来、入院にて活動を行っている。隔月に糖尿病センター運営委員会にて行い、方針の確認を行っている。

具体的な役割を以下に挙げる。

●外来での療養に関する患者サポート(フットケア外来、糖尿病透析予防指導)、慢性合併症の評価。

●糖尿病教育入院中の患者指導(糖尿病教室、DVD教室)

●市民啓発活動(生活習慣病教室、世界糖尿病デーりんくう健康フェスタなど)

●血糖自己測定装置の精度管理、患者指導、運用

●糖尿病療養指導に関わる人材の育成

●学会発表による発信

―実績―

①糖尿病外来患者の大血管合併症評価の促進

外来通院中の糖尿病患者における大血管合併症が不十分であった。このため、頸動脈エコー、ABI、心電図を年に1回評価することを目標として各医師に働きかけ、検査を積極的に行った。2020年11月と2021年3月の各検査の施行率を示す。

	頸動脈エコー	ABI	心電図
2020年11月	25.8%	32.3%	43.9%
2021年3月	31.6%	37.6%	43.5%

血管合併症評価のための検査は頸動脈エコー、ABIで増加を認めた。心電図は横ばいであった。また上記検査にて異常が認められたことにより紹介を行った件数は循環器内科で7例、脳神経外科で20例あり、合併症の発見治療に有用であると考えらえた。引き続き大血管合併症の評価を継続していく必要がある。

②糖尿病透析予防指導の状況

糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病腎症2期以上の症例について医師、栄養士、看護師が指導を行った場合算定可能であり、当院では糖尿病腎症早期予防指導という名称で通院患者の指導を行っている。図1のように2017年以降増加傾向にある。指導件数は6.8回/月で昨年同様の件数である。しかしながら、指導枠にはまだ余裕があり、糖尿病腎症2期以上の患者で未指導の患者も多数存在しており、受診を勧めていく。

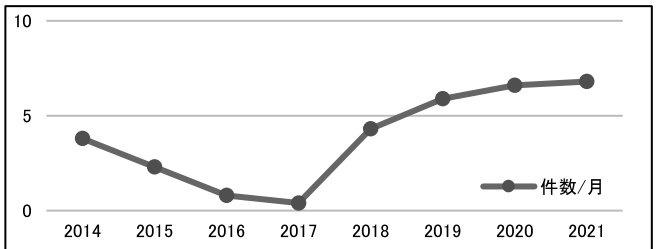

図1 施行件数の推移

③入院患者の増加についての対策

2021年10月より妊娠関連糖代謝異常(妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠)の患者を当科入院にて血糖コントロールを施行。32症例に関して加療を行った。

●院内および院外啓発活動

毎年世界糖尿病デーりんくう健康フェスタとして、市民啓発イベントを行っていたが、外来ブロックに『インスリン』をテーマとしてポスター展示を行った。またパンフレットを作成し、外来通院患者に配布した。

●血糖自己測定器の管理、運用に関して

昨年に引き続き血糖自己測定器について精度管理および患者説明を臨床検査技師にて施行した。

●学会発表についても積極的に行い、糖尿病学会年次学術集会、近畿地方会、日本病態栄養学会年次学術集会などで6演題の発表を行った。

―今年度の成果と反省点―

糖尿病センター運営会議での方針決定を軸として、外来および入院に関しての糖尿病診療の効率化を行うことができた。大血管合併症の評価については継続しての検査が必要であり、随時検査施行率の確認を行っていく。

―来年度への抱負―

妊娠時糖代謝障害に関しては入院を引き続き受け入れる。新規パス作成、患者説明用パンフレット作成を行っていく。